

論文内容の要旨

申請者氏名 清家庸佑

精神障害領域における作業機能障害の種類に関するスクリーニングツールの 尺度特性, 関連要因ならびに潜在ランク数の検討

1. はじめに

世界保健機関は, メンタルヘルスアクションプラン2013-2020で“**No health without mental health** (メンタルヘルスなしに健康なし)”を原則に, 精神的に満たされた状態 (**Mental Well-being**) を促進するという目標を掲げた. そうした中, 我が国の精神医療は精神障害者の地域移行支援および地域定着支援を重要課題と位置付けている. しかし, 長期入院患者を中心に難事例と称される様な退院意欲の低下や症状の慢性化で支援の立案および提供が困難な事例が存在し, そうした対象者についても効果的な支援を拡大していくことが必要とされている.

精神障害者のリハビリテーションの一つに作業療法がある. 作業療法は, 対象者の作業機能障害の改善を通して健康と安寧を促進する実践である. 作業機能障害とは, 人が作業を適切に行うことができない状態であり, その種類には作業不均衡, 作業疎外, 作業剥奪, 作業周縁化がある. 作業療法士は対象者の作業機能障害を評価する必要があるが, 精神障害領域に特化した作業機能障害の種類に関する評価尺度はなかった. そこで我々は, 本邦の精神科作業療法の実情と, 精神障害者の特性を考慮した上で, 4因子14項目からなる作業機能障害の種類に関するスクリーニングツール (**Screening Tool for the classification of Occupational Dysfunction ; STOD**)を作成した.

本研究の目的は, 精神障害領域における**STOD**の尺度特性と関連要因の検討および潜在ランク数の推定を行うことであった. それにより, 精神障害領域における**STOD**の臨床運用システムの基礎を作ることができ, 精神障害者の作業機能障害の改善にむけた作業療法の実践を促進する可能性を提供できると期待される.

2. 方法

1) 研究1 : 精神障害者を対象にした**STOD**の尺度特性の検討

目的は, 精神障害領域における**STOD**の尺度特性を検証することであった. 対象は, 精神障害領域で作業療法を受けている対象者171名であった. 得られたデータから**STOD**の記述統計量を算出した後に次元性の確認, 項目分析, 構成概念妥当性, 内的一貫性, 併存的妥当性の検証を行った.

2) 研究2:「作業機能障害の種類に関するスクリーニングツール」を用いた精神障害者の作業機能障害と主観的状态および健康状態との関連性の検討

目的は、STODと対象者の健康状態と主観的状态の関連性について明らかにすることであった。対象は精神障害領域作業療法の対象者121名であった。解析では研究1の解析に加えて健康状態や各種主観的尺度との関連性をマルチレベル構造方程式モデリングで相関係数を求め検討した。

3) 研究3: 精神障害領域におけるSTODの潜在ランク数の推定

目的は、精神障害領域における作業機能障害の潜在ランク数の推定を行うことであった。対象は精神障害領域作業療法の対象者431名であった。解析は記述統計量の算出、一次元性の確認、潜在ランク数の推定、一要因分散分析を用いて潜在ランク間の比較を行った。

3. 結果

1) 研究1: 精神障害者を対象にしたSTODの尺度特性の検討

STODは精神障害領域において対象者の作業機能障害を評価するのに良好な信頼性と妥当性を有している。テスト反応関数では、STODの得点が46.24の時に作業機能障害の程度が0であった。多母集団同時解析ではSTODの弱因子不変モデルが採用された。

2) 研究2:「作業機能障害の種類に関するスクリーニングツール」を用いた精神障害者の作業機能障害と主観的状态および健康状態との関連性の検討

STODはWHO障害評価面接基準2.0日本語版との間に強い相関を認め、下位因子でも全ての因子で相関を認めた。健康関連QOLではSF-8の精神的サマリースコアとの相関はSTOD全体と中等度の相関を認め、下位因子でも全ての因子で相関を認めた。Recovery Assessment Scaleとは軽度の相関を認めた。

3) 研究3: 精神障害領域におけるSTODの潜在ランク数の推定

本研究では、STODは一次元性を満たし、潜在ランク数は4ランクモデルが採用された(AIC=-1353.37, CAIC=-8906.94, BIC=-7415.94, RMSEA=0.01, CFI=0.94, TLI=0.93)。また、全ての潜在ランク間でSTODの合計得点に有意な差が認められた。

4. 考察

本研究では、STODは対象者の性別に関係なく、精神障害者の作業機能障害を観察評価できる尺度である、STODは対象者の健康状態、健康関連QOL、リカバリーと関連をもった情報を提供している、精神障害者の作業機能障害は4ランクで重症度分類が可能である、ことが明らかになった。ランクはそれぞれ、ランク1(作業機能状態群)、ランク2(作業機能障害予備群)、ランク3(軽度作業機能障害群)、ランク4(作業機能障害群)と解釈した。ランクが異なる集団では作業機能障害や疾病や障害の状態も異なって生じていることが明らかになった。

発表論文

研究2:「作業機能障害の種類に関するスクリーニングツール」を用いた精神障害者の作業機能障害と主観的状态および健康状態との関連性の検討

清家庸佑, 京極真, 寺岡睦 (2019)「作業機能障害の種類に関するスクリーニングツール」と精神障害者の健康状態および主観的状态との関連性の検討。日本臨床作業療法研究6(1):46-51

氏 名 : 清家 庸佑
学位の種類 : 博士 (保健学)
学位記番号 : 甲第保-32号
学位授与の日付 : 令和2年3月22日
学位授与の要件 : 学位規程第4条第3項該当 (課程博士)
学位論文題目 : 精神障害領域における作業機能障害の種類に関するスクリーニングツールの尺度特性, 関連要因ならびに潜在ランク数の検討
論文審査委員 主査 : 藪脇 健司 副査 : 原田 和宏 副査 : 森下 元賀
審査結果の要旨
<p>令和2年2月6日実施の最終試験 (学位審査公開発表会) の後, 主査1名と副査2名で審査委員会を開催し, 博士論文の内容を厳密に審査した.</p> <p>I. 審査対象となった博士論文の題目 精神障害領域における作業機能障害の種類に関するスクリーニングツールの尺度特性, 関連要因ならびに潜在ランク数の検討</p> <p>【掲載論文】 清家庸佑, 京極真, 寺岡睦(2019)「作業機能障害の種類に関するスクリーニングツール」と精神障害者の健康状態および主観的状态との関連性の検討. 日本臨床作業療法研究 6(1);46-51</p> <p>II. 審査結果 以下の理由で, 全員一致で本研究が博士論文に相応すると判断した.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健科学の学術的発展に寄与すると判断できる. 2. 倫理的配慮が適切である. 3. 査読付学術誌に論文が掲載されている. 4. 研究の新規性と意義が明瞭である. 5. 研究目的が明確であり, 先行研究の検討が十分行われている. 6. 研究法は妥当に活用され, 手続きが明確である. 7. 結果は明確であり, 適切に記載されている. 8. 結果の解釈は論理的に飛躍しておらず, 十分に行われている. 9. 考察は文献を適切に引用しながら深く展開している.